九州山地西縁の日奈久断層の再検討

福田将眞（京大・院）・田中均（熊大・教）・高橋努（八千代 E）

Re-examination on the Higagu Fault along the Western Foot of the Kyushu Mountains, SWJapan

Syoma FUKUDA (Kyoto Univ.), Hitoshi TANAKA (Kumamoto Univ.), Tsutomu TAKAHASHI (Yachiyo Engineering Co., Ltd.),

はじめに

日奈久断層は，熊本県上益城郡益城町木山付近から葦北郡芦北町を経て，八代海南部に至る断層帯とされている（地震調査研究推進本部 地震調査委員会, 2014）.

本断層帯は，概ね北東～南西方向に延び，全体の長さは約 81km であると見積もられている．日奈久断層は過去の活動時期から，益城町木山付近から宇城市豊野町山崎付近まで延びる高野−白旗区間（約 16km），宇城市豊野町山崎付近から芦北町の御立岬付近の日奈久区間（約 40km）および御立岬付近から八代海南部に位置する可能性がある八代海区間（約 30km）に区分されています．日奈久断層は，断層南東側が相対的に隆起する鉛直成分を伴う右横ずれ断層と考えられている．この日奈久断層は，日奈久区間の八代付近で臼杵−八代構造線を切っていると考えられていた（松本・勘米良, 1964）.

日奈久断層の新知見

日奈久断層は，北から高野−白旗区間，日奈久区間および八代海区間に分けられているが，日奈久区間の八代付近から南は，次に記す地質学的証拠により臼杵−八代構造線の延長と考えられる.

（地質学的証拠）

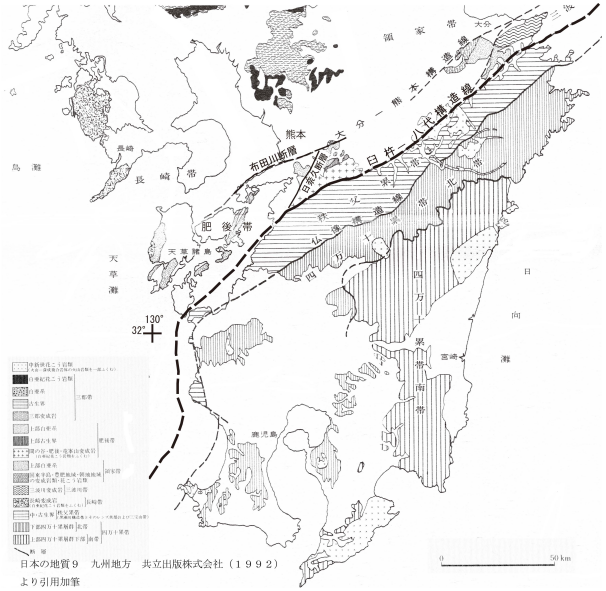
1．下部白亜系八代山地は，臼杵−八代構造線と猫谷構造線とに挟まれた宮地帯，猫谷構造線と深水構造線とに挟まれた日奈久帯に２区分されているが，これらの区分が八代から南の御立岬付近にも連続していることが地質調査と産出二枚貝類化石より明らかになった.

2．八代山地の臼杵−八代構造線沿いには，中～酸性の貫入岩類が多く観察されるが，これら貫入岩類が八代から南の御立岬付近にも観察される.

3．御立岬付近の海岸線は顕著な断層地形が認められる.

（地質的な意義）

八代山地の臼杵−八代構造線の南側の宮地帯には，特徴的な八代型二枚貝化石を多産する八代層が分布するが，鹿児島県川内市の久見崎層からも同じタイプの二枚貝化石群を産出する．この事実より，この地域は少なくとも宮地帯の延長部と考えられる．この結論と九州の地体構造から判断すると，川内市沖合に臼杵−八代構造線が定置している可能性が高いことを示しているため，その海域の反射法地震探査震度断面等を作成するとともにその地質学的解釈が求められる.



日奈久断層と臼杵−八代構造線との関係（唐木田他 1992 九州地方より一部引用・加筆）

引用文献

唐木田芳文・早坂祥三・長谷義隆 (1992): 日本の地質９ 九州地方 共立出版，371p

地震調査研究推進本部地震調査委員会(2014): 布田川断層帯・日奈久断層帯の評価（一部改訂）66p

松本達郎・勘米良亀齢 (1964): ５万分の１地質図幅「日奈久」および同説明書. 地質調査所, 147p